

鈴鹿 綿向山 ワタムキヤマ (1110m)

チームサントワ企画 樹氷を見たい！

2021年1月10日

L：磯部S、ヤマメ、磯部N、服部文鳥、ハンブルクの星、杉山、カワセミ、石田

コロナ禍のため、しばらくサントワ企画は中断していたが、年末年始の豪雪はここ琵琶湖東岸の山々にも雪をたくさん積もらせたため、新春山行として手軽な雪山かつ樹氷が期待できるこの山を選んだ。

新名神、東海環状の部分開通により、鈴鹿 竜ヶ岳の登山口を通過するのに2時間かからず、鈴鹿も近くなったものだ。

ただ、ここから綿向山までは意外と時間がかかり、さらに凍結が怪しい田舎道を小一時間ほど走って登山口に到着。

驚いたことにメインの駐車場は8時前で既に満車、手前の駐車場脇に仲間3台分駐めた。他の駐車場は登山道を歩き出して5分もすれば右手にもあり空いているが、積雪があれば厳しいかもしれない。

支度をしている間にも次から次へと車が進入してきて、この山の人気度を物語っていた。

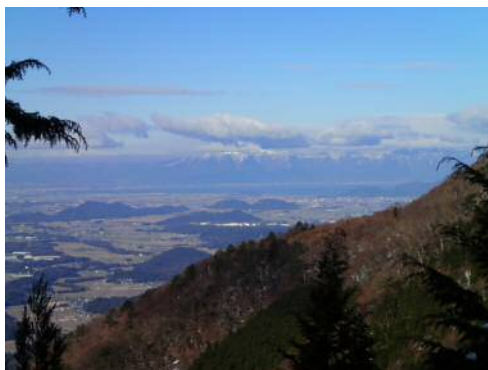
歩き出しには雪が無く、川沿いの林道から山の斜面をジグザグに登り始めると雪が出てきた。部分的には凍結していて若干気を使うが、快適だ。

真っ白な林道を横切りいよいよ雪山ら

しくなってきたが、どうも樹氷に関しては遠く稜線を眺めると心細い。



鐘のある5合目小屋の前にて



小屋前からの琵琶湖遠望

7合目行者コバからは、夏道は閉鎖されていて、ここでアイゼンを装着。直登コースを一気に上り詰める。

主稜線が近づいてきたが、残念ながら樹氷を拝むことはできなかった・・・。

鈴鹿は標高が低い割りに積雪量が多いところが魅力だが、その分気温が高く、融けるのも早い。“運”も必要なのだ。



頂上にて記念撮影！



往復で100人強の登山者に出会っただろうか。関西では大人気な雪山だ！

<タイム>

駐車場 8:20-頂上 10:55-11:30-駐車場
13:40



広い頂上では、みんなでおしるこを飲み、まったりと鈴鹿の雪景色を堪能した。東方正面にはどっしりとした雨乞岳やピラミダルな鎌ヶ岳がかっこいい。左手には以前サントワ企画で登ったイブネ・クラシのなだらかな稜線も望めた。楽しかったな～。